



クラブ 会報

CLUB BULLETIN (WEEKLY)

鶴岡ロータリークラブ

TSURUOKA ROTARY CLUB

D-253

創立 S 34.6.9

承認 S 34.6.27

例会場	鶴岡市馬場町	物産館3階ホール
例会日	毎週火曜日	12:30-13:30
事務所	鶴岡市馬場町	商工会議所内
	電話	0235 25775

会長	三井健
幹事	山口篤之助
会報委員	穂田幸一
	新鷲安嶺
	藤田定光
	岸光吉

No., 976

1978.9.26 (火) (曇一時雨) No.13

ウィンター紹介

菅原鉄三郎君 雑貨小売 一温海R.C
 菅原幸雄君 プレハブ建築 八幡慶二君 建築一鶴岡西R.C

会長・幹事報告

三井 健君

1. 財団の2,600%完遂の承認証が参りました。
2. 公式訪問後クラブ協議会の講評がガバナーより参りました。
各委員長から熱心な討議を頂き、お褒めにあずかりました。
ガバナーの手紙をご紹介致します。

地区内でも定評のある貴クラブを公式訪問出来ましたことを光榮に存じております。そして楽しい一時を過ごさせて頂きましたことを感謝申し上げます。
 国際奉仕、青少年奉仕部門では素晴らしい業績を挙げておられますが、クラブ奉

REACH OUT...

手をさし伸べよう...

仕の各委員会に於ても、これに劣らない立派な計画をもっておられますことは心強い限りでございます。兎角ある部門で優れた業績を持つクラブは、他の部門で見劣りがし勝ちでございますが、バランスのとれたクラブ活動、就中クラブの内部体制の強化が大切であることを痛感いたしました。

出席率の向上にもう一步の前進が見られればと存じますし、世界社会奉仕も、意外に手近かなものでありますので、単なる寄付行為と考える前に、より恵まれない人達に少しでも援助の手がさし伸べられる者の幸せを考えて頂ければと存じます。

20周年記念を目前にして、貴クラブの新しい強固な節が一つ作られますことを祈念いたします。

会員諸兄へも宜しくご鳳声賜わりたく願ひ上げます。 **ガバナー 黒 沢 茂**

1. 例会時間、場所変更のお知らせ **山口 篤之助君**
温海R.C 来る10月2日(月)の例会は磯釣り大会の為
とき 10月2日(月)16:00点鐘 ところ 地藏庵 喜多八 登録料¥3,000
2. 会報到着
(1) 藤沢R.C (2) 塩釜東R.C (3) 台中港区R.C (4) 山形R.C
(5) 山形西R.C (6) 山形南R.C (7) 山形化R.C
3. R.I第266地区年次大会仮登録のご案内
とき S54.4.6(金)~7(土) ところ 大阪中之島フェスティバルホール
登録料 ¥10,000 仮登録メ切 10月31日
4. ローターレート変更について
R.I本部から従来220円であった適用レートを 10月1日より1ドル192円とする旨連絡がありました。
5. R.A.C地区大会に参加していただいて御礼状 米沢R.A.C

◆ **ローターアクトクラブよりのお礼** **五十嵐 武君**

ダンスパーティも成功裡に終了しました。ご支援を感謝申し上げます。今度は若い者との交歓だけでなく、10月10日は老人ホーム「友江荘」への訪問。15日には高校生とのいも煮会を計画しております。

◆ **会員スピーチ 経営者と職業奉仕** **上野 三郎君**

最近読んだものから、経営者の職業奉仕に参考になると思われる2つの事例を紹介申し上げます。

私は、経営者が、しっかりした経営理念を持っているかどうか、その企業の成績に、意外に大きな影響を与えるのではないかと、日頃、何となく感じております。

第1の事例

これは、韓国の従業員300人程の或る工業用計器メーカーの話です。この社長は会社設立当時から、経営上一番重要なこととして「どうすれば経営者と従業員の一体感が生まれるか」を考え続けてきました。何故なら彼は「一体感が生まれれば良い製品が生まれ、企業が繁栄する筈です。殊に、一般のメーカーに較べて部品の数が多く、高度の品質管理が求められる計器メーカーが成功するには、この一体感が何より大切だ」と考えたからです。そして「家族的な人間関係に基礎をおいた韓国風の経営をやろう」と思い立ちました。

社長と各職場からの代表で、毎日1回労使懇談会を持ち、ここで、社長から月々の生産計画を説明し協力を求めるとともに、従業員からは、賃金や職場環境のことなど細かいことまで、自由に希望や意見を述べるといったことで理解を深め合いました。こうしたことを続けているうちに、自分達の職場環境は自分達の手で進んで整備するグループが相次いで出てきました。こうした空気は、本来の仕事の面でも見られるようになり、作業能率が非常に良くなりました。

こうして、「会社の仕事を自分の仕事と考えるようになり」当然のこと、営業成績は向上したということです。

この会社の社長が「従業員との一体感を持つことが最も重要だ」という経営理念をもったことが「韓国風の経営を」という方針をたてさせ、労使懇談会という手法をつかって経営理念を現実のものとし、いい結果を得たというこの事例を見て、私は経営理念のもつ重要さを、あらためて感じた次第です。

第2の事例

ソニーの厚木工場長をしておられた、小林茂という方の本からの紹介です。著者は昭和36年この工場長に就任されたが、当時のソニーには過激な労働組合があり、会社の創業15周年記念日にストライキをするという有様で、厚木工場の全従業員はこの組合に入っていました。それが、この本が出された42年には、厚木工場3,000余名のうち、組合員は数名にすぎなかったと云われています。労組への参加の良し悪しは別にして、僅か数年にして、大工場の従業員が殆ど全員、労組を脱退したという事実は大変なことであり、そんなことが出来る人の考えを知りたいと思いました。労組脱退の理由は、経営者が労組以上に真剣に、従業員の幸せを考えてくれたから、従業員は労組に頼る必要がなくなったということなのですが、この工場経営者である著者は、従業員の幸せを、賃金を上げるとか、福利厚生面を充実するという形で考えたのではなく、これまで以上に責任ある仕事を与え、委せ、これに挑戦させ、これを達成する喜びと生きがいを感じずる形で考えたのです。

著者は「人間は本来、仕事に挑戦し、達成したことを喜び、成長することを求め、そこに生きがいを感じるものだ」という考えから、こういう人間の本質を生かせる経営であるべきとして「人間を生かす経営」を経営理念としているのです。著者はこう云っています。「仕事の能率をあげるには、分業とかコンベアシステムには大きなプラスがあるが、反面、そこには非人間的だ」という本質的な欠点がある。これはチャップリンの映画（モダンタイムス）に見る通りであり、ここでは、人間は機械の一部に置きかえられるにすぎないのです。しかし人間には頭と心があります。人間から、労働力だけを切り離すわけにはいきません。労働力を買おうと、必ず人間がそこにくっついて来ます。このくっついてきた人間が、とかく面倒を引きおこします。そこで、このやっかいな人間を、あやしたり、反抗を緩和したりするための手法が、数多く考え出されてきました。働く人達にしても、仕事から解放されたところにだけ、人間というものを考えています。いやいや働き、もらった給料でレジャーを楽しむところに、生きがいを求めようとしています。だが、そんなところに生きがいのある筈がないでしょう。」

著者は、いろいろな手法—コンベアを回転テーブルに代えたり、ZD計画を導入したり、ヨコの分業をタテの分業に代えたり等々—を使って、従業員が「自分が自分の仕事のマネージャーだ」と仕事に生きがいを感じるように、仕

事や組織を整備して参りました。この一つの結果が、従業員に労組の必要を感じさせなくしたことにあらわれたものと思います。

私がここで云いたいのは、著者が使ったいろいろな手法が先にあったのではなく、「人間を生かす経営」という、経営理念がすべての出発点にあったということです。

委員会報告

1. 国際奉仕委員会

迎田 稔君

ブレントン君の両親ハント夫妻が11日夜、鶴岡へお出でになります。当クラブとしての受け入れ方法など相談したいので、これからご指名の方例会終了後居残り下さい。

2. 親睦委員会

高橋 正太郎君

23日西クラブと共同のゴルフ大会は16名参加で無事終了致しました。

半田浩君が優勝致しました。

尚、10月1日は既報の通り釣り大会を開催致します。いやしくも竿をお持ちの方ならば、是非参加して下さい。

3. 青少年委員会

小池 繁治君

a 9月16日田川地区中・高校生英語弁論大会が青少年センターで行われました。多分笹原桂一君の娘さんだと思いますが、笹原友紀さんが中学生のスピーチの部で第1位となりロータリー賞を受けました。尚、中学の暗唱の部では島明子さん、高校の部では鈴木としさんがそれぞれロータリー賞を獲得されました。

b 9月8日に開催されました地域青少年健全育成懇談会の模様を三井徹君より代理に説明するようにと指示ありましたが原稿をクラブ会報委員会へ廻しますので、そちらの方でよく読んで頂きたいと思います。(原稿別添)

SMILE BOX

半田 浩君 鶴岡ロータリー親善ゴルフ大会に優勝して。

メッセージ from C.B.C

本日皆様のお手許に立派な装丁本がおいてあった筈ですが、これは会員の齋藤得四郎(号一雙庵)君の作品の集大成として出版されたものと思われます。ご覧になればお分りのように大変素晴らしい豪華な作品集で、会員皆様への贈呈品だそうです。氏のご厚志に感謝しつつ、10月3日より致道博物館で開催される回顧展の成功を心からお祈り申し上げます。

出席報告

本日の席	会員数	70名	欠席者	阿部(与)君、半田君、海東君、三井(徹)君、中村君、板垣(広)君、佐藤(伊)君、佐藤(友)君、佐藤(正)君、鷺田君、笹原君、内山君、富樫君、金沢君、佐藤(元)君
	出席数	55名		
	出席率	78.57%		
前回の席	前回出席率	83.61%	メモ ック クラブ	張君一札幌R.C 笹原君一仙台R.C 五十嵐(三)君、風間君、嶺岸君、中野(清)君 佐藤(友)君一鶴岡西R.C
	修正出席数	65名		
	確定出席率	92.86%		

「青少年健全育成懇談会」経過報告

9月8日 午後6時半 於 産業会館第一会議室

出席者	社会教育主事	佐藤 隆	金峯少年自然の家 研修主査	今野勘左工門	○
	児童厚生員	庄司成雄	青少年補導員	佐藤 トミ子	○
	青少年育成推進員	高橋和吉	民生児童委員	藤波 顕寿	○
	B.B.S	斎藤清明	青少年センター館長	佐藤 新市郎	○
	青年の家指導員	庄司 保			○
	ロータリークラブ	三井 健	三井 徹		
		山口 篤之助	小池 繁治		
		石井 敬三	菅原 辰吉		
		内山 喜一	渡会 一雄 (R.A.C)		○

参加者の役割の紹介と活動の要点をまとめると次の様になります

(社会教育課)

教育委員会社会教育課の仕事は、直接青少年と関連ある事は成人式位で傘下の公民館、青年センター図書館等で行う青少年関係事業の連絡調整の行政機関としての役割である。公民館では少年教室、青年教室、更にそれら青少年を取巻く父兄を対象とした婦人学級、家庭教育学級等を行っている問題点としては、子供の場合は学校、PTAとの連絡でやり易いが、青年の場合は殆んど勤労青年に限られ、在学青年を対象とする行事が全くないという事である。

(金峯少年自然の家)

少年自然の家は計画中のものを含め県立4ヶ所、市立1ヶ所である。全国的に見れば100ヶ所を越しているが、その設立の主旨は、学歴社会に供う学校での受験競争に明け暮れる少年を、自然の中で奉仕の心、自然を大事にする心、集団生活、規律の精神を遊びの中で養なうという文部省の考えの下に出来たようです。

少年自然の家では、それに従い勉強めいた事は一切やらず、野外活動に重点を置き、キャンプオリエンテーリング、浴水浴、登山、スキーといった遊びをかならず宿泊する事で自発的に行動させ、集団生活を通して奉仕の芽を育てるようにしています。

ただ問題なのは現代の子供は全く過保護で、子供会等で父兄同伴の時など、親が子供の面倒をみるのが当然の事のようにして居ります。意外に思うのは子供達が奉仕活動を嫌がらじに行い、団体生活を喜び、知らない子供達もすぐ一緒に仲間に入るとい事です。又私共が声をかけると、夏場の込み合った時、

3
18
12
2
4

工業高校、高専、庄農の生徒が進んで手伝いをしてくれるのは心強い事です。

(児童厚生員)

最近出来た中央児童館の指導員という職務ですが、現在9名児童館、遊園地等で**遊びの善導をする**という以外、明確なものはありません。

(青少年補導員)

青少年補導センターは現在192名、活動は多種に渡っていますが、最近の活動では俗悪雑誌の追放に取り組んでいます。街頭での非行補導も以前は高校生、中学生が主でしたが、最近では小学生、幼稚園の園児にも及んで居ります。青少年非行の原因は色々あるでしょうが、何と云っても家庭生活に問題があると考えています。家庭でもっと子供の非行に関心を持ち、俗悪雑誌等にも注意してもらいたいものです。

(青少年育成推進員)

この制度は昭和36年からあり、鶴岡市には学区毎に27名(内婦人3名)、庄内地方に132名、山形県全体では459名です。仕事の**0才から25才迄の青少年の健全育成、非行防止**を目的として居りますが、山形県は東化で第2位で非行が多く、増加率も東北最多です。

なかでも鶴岡市、米沢市は非行青少年が多く、大変憂慮すべき状態です。総理府からの指名で昨年調査した処では、昨年4台しかなかった雑誌自動販売機が、現在16台にもなって居り、補導員と共にこれら販売機の撤去方と街頭補導を推進して居る状態です。

(民生児童委員)

民生委員は以前生活困窮者の保護という事であったが、その後児童委員も兼務し、民生児童委員と呼ばれている。職務としては**児童がより健やかに過ごされるように環境条件の整備をしてやる**となつて居るが、直接児童の育成という面は強くない。ただ子供達の色々な問題、子供の家庭の問題等が出た時に保護者に対し福祉的な援助を行い、子供を養護施設、母子寮(児童福祉施設)に預ける手助けを行ったり、児童相談所に問題を持って行く等のように、役所と地域家庭とのパイプ役を果しているのです。

民生協議会の事業として、青少年育成推進員とも連絡を計り、子供祭り、社会福祉団体の仕事にも参加協力し、子供会の指導者講習会を開き、町内会PTAと連絡し、ボーイスカウトの指導者を講師に正しい遊び方に就いても積年の実績があります。

問題点として児童委員は子供会等にも進んで首を突込み、協力したいのですが、町内会の人の方が自分の町の児童委員が誰かも知らない事もあり、進んで割り込んで行く事の是非に就いて苦慮している状態です。

(B B S)

BBSは青少年の非行防止と、あやまって非行に落ちた青少年の更生を助け

る事を目的とする民間団体ですが、現在23名在籍ある内5～6名しか実際活動者がなく苦勞して居ります。

活動としては3本の柱、つまり友達活動、社会浄化活動、自己研鑽を主とし、社会浄化活動としては子供祭り等に協力している程度ですが、補導センター、家庭裁判所、児童相談所、保護監察所等より年間7件程の依頼があり、BBS会員が友達活動を展開するのです。

予算は会費200円、保護司会、県美連等からの補助により運営して居ります。問題点としては、新会員が増えない、ケース活動が難かしい、その他今事業の見直しが必要な時期に来ていると考えています。

(青少年センター)

全国に300種の青年の家、青年センターというものがあるが、設置の年代によって管理主管はさまざまである。

鶴岡市の青少年センターは、教育委員会の主管である。事業は大別して2つあり、1つは**青年自主団体に会場を提供する施設開放**であり、今1つは**自主事業の展開**である。自主事業は、鶴岡の場合青年スクールを開設し、10課10項目に就いて一般教養、技能修得、家事を主に行い、昭和46年から8回、毎年300名位の参加者がある。更に交流行事としてセンターを利用する団体間の交流、親睦を旨とし文化祭、球技競争等も行っている。亦姉妹都市鹿児島との青年交流も8回目になっている。

研習活動も実行しているが、青年団体リーダー研習といっても各団体の指導者に現状を報告して貰い、将来の方向を聞く程度で実質的な研習の実は上っていない怨みがある。

問題点は在学青少年に就いての行事活動が全然ない事と、広報調査活動が粗末であるという事である。

(青年の家指導員)

青年の家の指導員の役割は、利用団体の自主的なプログラムに全部まかせ、わずかに物品の貸出し、施設の案内、最少の助言と援助という事です。施設としては野外活動を主とし、オリエンテーリング、キャンプファイア、海水浴、フィールドアスレックス等を行うようになって居ますが、鶴岡市の青少年では高校生の利用はあるが勤勞青年の利用が大変少なく問題にしている。

主催事業として高校生を中心としたボランティア養成講座を持ち、今年も鶴岡の高校生10数名を含む50名程の参加があった。

(記録 石井敬三君)

懇談会を行ってみての感想

三井 徹 君

青少年指導者として相当数の人々が夫々の分野でよく活動している。(行政の方も民間有志の方も) 青少年育成の為の施設、設備も非常によくなっている。しかし、非行者の数は増加傾向にある。殊に山形県は東化第2位、鶴岡、米沢市が県内で多い方である。此の現状に対して、地域社会で行われていることは(学校指導教育は別として) 青少年に対する社会的環境の浄化、整備、よい遊びの場、研修訓練設備とその場に於ける適切な指導、非行防止の補導(主に街頭)などが相当強力に行われている。

特に大切な問題としては「家庭教育」である。公民館などの家庭教育学級などあるが、一般子供は親の言うことは聞かないが、真似はすると云われている。之は社会に於ても子供と大人の関係の一端でもある。大人がよく考えて行動しなければならぬ。此のような状況の中で重要視され、待望されているのは青少年ボランティアである。

私共ロータリーがやっている青少年ボランティアの養成は、現代の社会が切実に要求しているものであると考えられる。約30年前からロータリー国際的に行って来た青少年奉仕プログラムは、高く評価される可きものであることを再認識させられた。

今後、身近かなものとしては I.C、R.A.Cの育成に努力すると共に、ロータリー財団の教育活動、交換学生など青少年奉仕活動を推進しなければならないと痛感する。

此の会を今後継続して行いたいという声があったが、尚、工夫を加えて発展させることも有意義かと考える。

先日、岩谷堂 R.Cの化條君と会談したが、現在日本一か世界一かと思われる I.Cを作りあげている。その熱意と努力を淡々として語ってくれたことには深く感動した。

彼がやっているように、私共ロータリアンは青少年に対して、もっと積極的に、計画的に「ロータリー」を理解させるように、語り合い、相共に奉仕活動を行うように努力しなければならない。

青少年がロータリーをよく知るようになれば、その多くの人々は共感をよび、協力しようとするであろうと、いうことを強く感じさせられた。